

# ホホバ 頒布会便り



発行  
毎月一回  
(株)アイリス

二月に入り、暦の上では春ですが、実際には年間で一番寒さが厳しい季節となりました。空気も乾燥し、冷たい風に晒されて、お肌も乾燥して硬く、ガサガサになりがちです。今の時季にきちんとお手入れして、ハリのある潤った素肌で春を迎えましょう。

## 今の季節、お肌の

### 乾燥に要注意

寒さも今がピークというこの時季は、冷たい風や乾いた空気がお肌に辛い季節です。

乾燥してくると、弾力を失ったお肌は、角質を厚くしてお肌を守ろうとします。

その結果、厚くなった角質は顔色をくすませ、硬くカサついたお肌に

さらに、弾力がなくなるので少しの刺激にも傷つきやすく、肌トラブルも増え、治りも遅くなります。

## 徹底保湿で

### お肌の水分を保つ

お肌の乾燥を防ぐには、まず、お肌の水分を逃がさないように、お肌表面に油分のベールが必要です。

健康なお肌は、お肌から自然に分



泌される「皮脂」が、そのベールの働きをしてくれるのですが、乾燥肌の方や、そうでなくとも年齢と共に皮脂の分泌が不足してくるので、ホホバでお肌の表面にしつかりと油分を補ってあげましょう。

## お肌の保湿で

### 肌年齢が変わる

乾燥は、お肌が老化する大きな原因のひとつです。

加齢による老化も勿論ありますが、加齢によりできてしまったシワやくすみ、お肌が乾燥していると、回復できずにそのまま残ってしまうのです。

見た目の若々しさや肌年齢は、保湿のお手入れで違ってきますから、徹底保湿を心掛けましょう。

## この時季、徹底保湿で

### お肌の乾燥を防ぎましょう

この時季、お顔はもちろん、全身のお肌も乾燥してしまい、肌トラブルの多くなる季節です。

乾燥して粉を吹いた様に白くなったり、乾燥性の痒みが出てお困りの方も多い様ですから、しっかり保湿して潤ったお肌を取り戻しましょう。

#### ◆乾燥したお肌は

#### 十歳は老けて見える

寒い季節は体の新陳代謝も衰えがちになり、お肌の生まれ変わりのサイクルも長くなってしまいます。

すると、乾燥したお肌がなかなか回復できず、古く厚くなった角質がお肌をくすませ、そのせいで老けて見えてしまうのです。

乾燥を防ぎ、お肌の潤いを保って↓

↓ いれば、角質が厚くなり過ぎる事はないので、くすみのない、透明感のあるお肌に回復します。

潤ったお肌は弾力もあり、笑いジ

ワや細かな表情ジワもすぐに戻り、ハリのあるお肌をキープできます。

#### ◆お顔だけでなく

#### 全身の保湿を

毎日しっかりお手入れしているのに、乾燥肌が良くなるらない、という↓

↓ 方は、お顔だけでなく全身の保湿を。

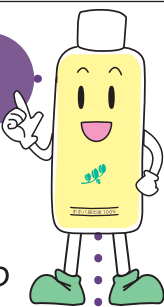
お風呂上り、濡れた体を軽く拭き、お肌にまだ水分が残った状態で、ホバを全身に薄く伸ばします。

乾燥しやすいスネや踵かかと、痒みの出やすい脇腹や背中にもしっかりホバを伸ばしましょう。

また、冬場はトイレが近くなるから、と水分補給を控えて、体の中の水分量が不足している事もあるのでしっかり水分を摂りましょう。



## ホホバは7℃以下になると固まります！



寒い朝、ホホバが固まって出てこない、といった事はありませんか？

これはホホバが持つ独特の特性のため。

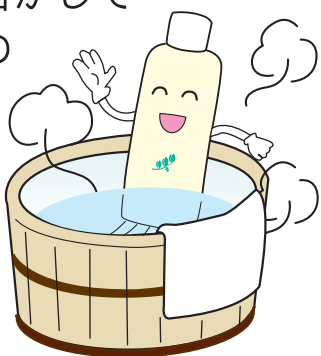
天然自然のホホバは、日中は40℃を超え、夜には氷点下まで下がる事もあるという、寒暖差の激しい地域に育ち、気温が7℃以下になると固体化し、水分の蒸発を防いで身を守ります。

液体←→固体を繰り返すホホバの特性は、抽出液となっても変わりません。

冬場は暖かい場所で保管していただくか、さっと湯煎して溶かしてお使いください。

液体←→固体を何度繰り返しても、品質は変わりません。

また、ホホバを固形にして、体温で溶かして使うタイプのホホバクリームもご用意しております。



## ◆お肌のハリと弾力は水分量が決め手に

お肌の弾力がなくなると、シワやたるみが出てきますが、その原因は外の冷たい空気やエアコンによって進む乾燥です。

お肌からどんどん潤いが奪われてしまうこの季節は、保湿の前にお肌の水分補給もたっぷり行いましょう。また、お肌表面に油分はあるけれ

お化粧水・ホホバは  
しっかりハンドプレスを！



ど、お肌に弾力が無い、といった時は一度お肌に水分を補給してから、もう一度保湿のお手入れを。

## ◆アロエローションとホホバで徹底保湿

朝晩のお手入れの際、アロエローションをつける時は、両手を合わせて体温で温めてから、お顔を包む様にハンドプレスしてお肌に水分を押し込むようにつけましょう。

その後、ホホバを顔全体に薄く伸ばし、目元・口元等の乾燥しやすい部分には重ねづけしてください。